

創立50周年を経て 新たなステージを目指して

酒田共同火力発電株式会社
常務取締役 菅野 功



ごあいさつ

酒田共同火力発電株式会社の菅野でございます。日頃より弊社事業にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、東北活性化研究センター様の機関誌に寄稿する機会をいただきありがとうございます。この機会に、当会員企業の皆様に弊社の概要ならびに今後の課題等についてご紹介させていただきます。

会社紹介

弊社は“共同火力”と社名にあるとおり、1973年4月に東北電力株式会社と住軽アルミニウム工業株式会社の共同出資により設立され、1977年10月に1号機、翌1978年10月に2号機が営業運転を開始し重油焚きの火力発電



酒田共同火力発電所

所として発電事業をスタートしました。その後まもなく発生したオイルショックを受け、1982年3月より石炭焚きへの転換工事に着手し1984年9月に1号機が石炭火力発電所として営業運転を再開いたしました(2号機は1992年6月)。また、この間、住軽アルミニウム工業が解散し、現在は、東北電力の100%子会社となっております。発電電力全量を東北電力に販売しております。

燃料となる石炭は全量海外より輸入していますが、酒田北港に石炭船の専用岸壁を所有し、そこで荷揚げを行っております。その量は酒田港全体の取扱貨物量の5割超を占めており、酒田港における重要な位置付けを占めております。

また、地域共生活動の一環として、1986年より春と秋の年2回「酒田北港530(ゴミゼロ)



山形県県土づくり感謝状贈呈式
吉村知事より感謝状が佐藤社長に授与

作戦」と称する酒田北港周辺の清掃活動を続けております。これには弊社社員のみならず、弊社OB、酒田地区の東北電力グループ企業、港湾関連の行政機関、ボランティア団体などからもご協力いただき、毎回100名以上で実施しております。本活動については各所より高い評価を受け、2015年には国より緑綬褒章、2024年には山形県より県土づくり表彰を受けており、弊社の地域共生を象徴する重要な活動となっています。

低炭素社会実現への貢献

CO₂削減への取り組みとして、2011年5月より配電線の支障樹木をチップ化した木質バイオマス燃料の混焼を開始以降、建設廃材の木質チップにも利用範囲を広げるなど混焼量の拡大に努め、2024年度の年間消費量は約6,800トンとなり過去最大を達成しました。なお、産業廃棄物となる石炭の燃焼灰については、自社構内に専用の灰捨地を保有しておりますが、セメントやFRC（石炭灰を主原料としたコンクリート材を採石状としたもの、路盤材などに活用）の原料、土地や道路の盛土などとして有効利用100%に取り組んでおります。

また、当社はこれまで培った発電設備の運転・メンテナンススキルを活かし、近郊の他社発電設備の建設管理ならびに運転保守管理への業務の拡大にもチャレンジしてきております。2003年にサミットウインドパワー酒田株式会社様から洋上風力発電の建設管理業務の受託を皮切りに、翌年には同発電設備の運転保守管理業務を受託（現在は業務終了）、直近では2021年7月に東北電力グループ初のバイオマス専焼となる鳥海南バイオマス発電所（山形県遊佐町）

の建設におけるオーナーズエンジニアリング業務を受託し、鳥海南バイオマスパワー株式会社様へ建設工事から試運転段階に至る技術支援を行い計画通りの営業運転開始実現に貢献いたしました。また営業運転開始後も続けて同発電所の運転保守管理業務を受託し、安全安定運転に貢献しております。



鳥海南バイオマス発電所

最後に（今後の課題）

当社は創立以来、事業環境の変化に果敢にチャレンジし2023年には創立50周年を迎えました。既存石炭火力設備の経年劣化という自社固有の課題に加え、国策としてのカーボンニュートラル達成に向けて非効率石炭火力のフェードアウト圧力が高まっており、脱炭素化を踏まえた後継事業への転換が急務となっております。こうしたことから社内プロジェクトチームを編成し、様々な角度から検討を行い全社態勢で具現化を目指して取り組んでいるところです。重油火力として創業した第1ステージ、石炭火力への転換後の第2ステージを経て、引き続き当社の企業理念である「地域と共生するエネルギー企業」として歴史を積み重ねていけるよう新たなステージの幕明けを目指してチャレンジしてまいります。